

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成15年度病虫害発生予察特殊報第4号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成15年度病虫害発生予察特殊報第4号

- 1 対象作物 レタス類（かきチシャ）およびジャガイモ
- 2 病虫害名 レタス黄化えそ病、ジャガイモ黄化えそ病
- 3 発生地域 県北部
- 4 特殊報の内容
  - (1) 初発生確認の経緯
    - ア 平成15年5月下旬に県北部の地域農業改良普及センターから、株の上位部分と果実にあそ症状のあるトマトの病虫害診断を依頼された。ELISAによるウイルス検定の結果、これからトマト黄化えそウイルス(TSWV)が検出された。
    - イ 現地を確認したところ、同一ほ場内にレタス（かきチシャ）、ジャガイモ、キク等が栽培されており、同様にえそ症状等が確認された（写真、  
、  
、  
）。
    - ウ えそ症状のあるこれらのレタスとジャガイモからは、ELISAでTSWVが検出された。また、グアニジンイソチオシアネート変成法により両者からRNAを純化してRT-PCRを行った結果、TSWV特有の塩基配列が増幅された。  
以上の結果、これらのレタスとジャガイモは Tomato spotted wilt tospovirus (TSWV)による黄化えそ病であることが判明した。本県でのレタス類及びジャガイモでの本病の発生は初めてである。
  - (2) 主要な病徴
    - ア レタス（かきチシャ）では一見、薬害のようなえそ症状を生じる。（写真）。
    - イ ジャガイモではえそ症状（写真）や輪紋症状（写真）を生じる。
  - (3) 病原ウイルスの性質等
    - ア 本ウイルスは宿主範囲が広く、特にナス科、キク科、マメ科、アカザ科などでは、植物体に全身感染し被害が大きくなることが多い。  
本県ではこれまでにトマト、ナス、ピーマン、スターチス、アスター、トルコギキョウ、キャンディタフト、キク、ミヤコワスレ、カランコエで

発生が確認されている。

また同様にタネツケバナ、サクラタデ、オランダミミナグサ、ギシギシ、セイトカアワダチソウ、オオアレチノギク、イヌビユなど、雑草への感染も確認されているが、これらはいずれも無病徴であった。

イ アザミウマ類が本病を媒介する。特にミカンキイロアザミウマはウイルスの伝搬能力が高い。1令幼虫のみが罹病植物からウイルスを獲得して一生媒介するが、2令以降は獲得能力がない。また、ウイルスは経卵伝染しない。

ウ 一部の作物ではウイルスが植物体内に局在化することが知られており、病徴のない植物を検定する際は複数箇所を試料とする必要がある。なお、キクなどでは、根を試料に用いるとTSWVが比較的検出しやすい。

#### 5 防除上注意すべき事項

- (1) レタス等には目合い0.4mm以下の防虫ネットの設置や薬剤散布を行い、アザミウマ類の防除を徹底する。ジャガイモは無病の種イモに更新する。
- (2) 他の作物も含め感染株は新たな発生源となり得るので、確認次第、速やかに根こそぎ抜き取り、焼却または土中深く埋める。
- (3) 雑草類はウイルスの感染源やアザミウマの増殖源となるので、ほ場内や周辺の除草を徹底する。
- (4) 非結球レタス類のアザミウマ類を対象とした登録薬剤としては、アセタミプリド水溶剤がある。使用に当たっては以下の防除基準を参照する。  
希釈倍数：4,000倍      使用方法と時期：散布、収穫7日前まで  
散布液量：150～300リットル/10a      使用回数：1回
- (5) 本県での発生地域は限られているが、今後、拡大する可能性があり、各地域でも発生に注意する。



写真 レタス（かきチシャ）におけるえそ症状



写真 レタス（かきチシャ）における黄化症状

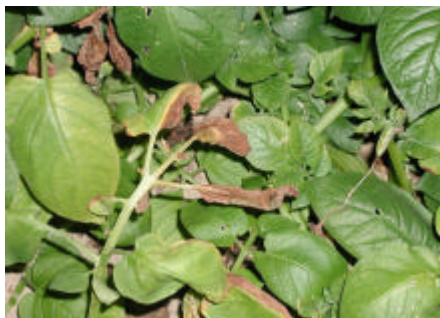


写真 ジャガイモにおけるえそ症状



写真 ジャガイモにおける輪紋症状